

鹿角市小中学校情報機器整備事業に係る各種計画

鹿角市教育委員会

令和 7 年 3 月

【鹿角市】
端末整備・更新計画

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
① 児童生徒数	1,666	1,574	1,509	1,431	1,352
② 予備機を含む 整備上限台数	0	0	1,735	0	0
③ 整備台数 (予備機除く)	0	0	1,509	0	0
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	0	1,509	0	0
⑤ 累積更新率	0	0	100.0%	0	0
⑥ 予備機整備台数	0	0	100	0	0
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	0	100	0	0
⑧ 予備機整備率	0	0	6.6%	0	0

※①～⑧は未到来年度等にあつては推定値を記入する

(端末の整備・更新計画の考え方)

○令和 2 年度に整備したタブレット端末の劣化・故障等が多く見られるため、学校
が安心して使用できる端末を整備する必要がある。

○予備機は児童生徒数の減少傾向を勘案し、各校 10 台とする。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：1,996 台

○処分方法

・使用済端末を公共施設や福祉施設など地域で再利用 : 0 台

・小型家電リサイクル法の認定事業者に再使用・再資源化を委託 : 1,996 台

○端末のデータの消去方法 ※いずれかに○を付ける。

・自治体の職員が行う

・~~処分事業者へ委託する~~

○スケジュール (予定)

令和 9 年 6 月 処分事業者 選定

令和 9 年 4 月 新規購入端末の使用開始

令和 9 年 6 月 使用済端末の事業者への引き渡し

【鹿角市】
ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合（％）

- ・ ネットワーク速度が確保できている学校数 6校
- ・ 総学校数に占める割合 60％

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

（1）ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

ネットワーク速度を確保できていない4校について、令和7年10月までにネットワークアセスメントを実施し、課題の特定を完了させる。

（2）ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

課題調査の結果を踏まえ、改善策の検討を開始し、令和8年3月までに改善策を完了させる。

（3）ネットワークアセスメントの実施等により、既に解決すべき課題が明らかになっている場合には、当該課題の解決の方法と実施スケジュール

【鹿角市】

校務DX計画

秋田県では、校務のデジタル化により教職員の働き方改革を進めることで、児童生徒一人一人に向き合う時間を確保するとともに、介護や子育て中の教職員の働き方を柔軟化し、負担を軽減することを目指し、令和5年度、フルクラウド型の秋田県小中学校等統合型校務支援システムを構築しました。県域で統一したシステムを、将来的には全市町村で導入する予定になっています。

鹿角市は、「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、このシステムを現在利用中の校務支援システムの更改時期である令和7年度4月から導入することとしており、システムの活用において、保護者連絡システムでの欠席等情報や、学校等欠席者・感染症情報システム等とのデータ連携により、手入力作業の大幅な削減に取り組めます。また、学習者用端末において学習振り返り支援ツールを利用し、そのデータを校務支援システムに連携させることにより、校務系・学習系データの統合と可視化による業務の高度化を図ります。これを契機に紙ベースの業務見直しや、FAXでのやり取り・押印の見直しを推進します。

多要素認証等の強固なアクセス制御を前提としたセキュリティ対策の下、パブリッククラウド上のシステム活用により、ロケーションフリーでの柔軟な働き方の実現が可能となるようルールを見直します。

また、県共通テナントでのアカウント利用により、汎用クラウドツールの共通化が可能となるため、学校関係者のコミュニケーションの活性化を図ります。

校務支援システムの活用により、有事の際でも、教職員・児童生徒の安否確認、オンライン授業で学びを継続させる等、優先度の高い業務の継続性を担保します。

【鹿角市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本市の教育目標は、「心豊かで たくましく 郷土を愛し その発展に尽くす市民を育む教育を進める」である。目標の実現に向けて、GIGAスクール構想の下、児童生徒の情報活用能力及び教員のICT活用指導力の向上を図り、各教科等におけるICT活用を推進する。さらに、1人1台端末を活用して「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を実現させていく。

2. GIGA第1期の総括

令和2年度、市内全10校に1人1台端末の整備と無線ネットワーク環境を整備しており、各教室や特別教室、体育館などからインターネット接続、授業支援ソフト、デジタルドリルを利用しているほか、他校や外部とのオンライン交流にも利用している。1人1台端末によって、授業だけでなく学校行事や特別活動等での活用のほか、持ち帰りによる家庭学習にも活用するなど、各活動の充実につながっている。

令和4年度には、電子黒板の増設とICT支援員の配置を行った。電子黒板を増設することで、各学級での使用頻度が高まり、授業において個別最適な学びと協働的な学びを支えている。また、ICT支援員を配置することで児童生徒の情報活用能力の向上のサポートに留まらず、教員のICT活用指導力の向上や業務改善に大きく貢献している。

課題としては、「通信速度」と「情報モラル教育」の2点が挙げられる。「通信速度」においては、学校間で差があることが判明したため、令和7年度にアセスメントを行い、通信速度が安定するよう整備していく。「情報モラル教育」については、各小・中学校において、情報モラル教室等を定期的で開催するなどしてきた。一定の効果も見られるが、今後も学校や家庭と連携して、継続した指導が必要となる。

3. 1人1台端末の利活用方策

今後、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を実現させていくために、各小・中学校や研修団体において研究を推進していく。GIGA第1期において、児童生徒の情報活用能力及び教員のICT活用指導力は確実に向上していることから、授業における1人1台端末のより効果的な利活用について検証を進め、授業研究会や研修会を通して情報を共有していく。

「個別最適な学び」については、児童生徒一人一人のスキルアップが欠かせないことから、ICT支援員によるサポートをさらに充実させていく。また、不登校の児童生徒に対しても、個々の端末へリモート接続するなどして、学びの機会の保障につなげる取組について検討する。

令和7年度より導入した新校務支援システム運用などにより、校内ネットワーク負荷が大きくなることに対して最適にするとともに、新たに導入される端末においても適切に利用できる環境整備に努めていく。